

イザベラ・バードの道を辿る会の取組み

イザベラ・バードの道を辿る会

1 団体の設立目的

1878(明治11)年に英国の女性旅行家イザベラ・バードは、北海道の函館、室蘭、白老、平取を訪れ、そのときに観察・記録した気候風土や人々の暮らしを『日本奥地紀行』の中で世界に紹介しました。イザベラ・バードの残した足跡は、今も道内外の郷土史家や各分野の研究者によって研究され、現代においても価値あるものとして、その功績を継承する活動が行われています。

2007年、北海道環境財団理事長で元北海道大学植物園長の(故)辻井達一先生の呼びかけに応じて、バードに関心のある人たちが集まり、2007年5月にイザベラバード・バードの道を辿る会(以下、「バードの会」という)が発足しました。バードの会では、バードが訪れた足跡を辿ることで、地域の歴史や風景の移り変わりを見つめ、環境保全と観光の両立を図りながらエコツアー、フットパスによる地域の振興を目指しています。当会には、七飯、室蘭、白老、札幌、平取に部会があり、各地で活動を行っています。

2 事業内容と取組みによる成果

(1) イザベラ・バードに関する資料収集・現地調査

はじめに、1878年にバードが歩いた道(ルート)を復元するため、明治期から現在までの地形図を地理情報システム(GIS)を活用して重ね合わせ、バードが歩いたと思われる道を明らかにしました。次に北海道の自然と文化を生かした新たな地域産業としてのエコツーリズムを具現化し地域づくりに生かすため、周辺の自然環境や歴史・文化などの地域資源の発掘を行いました。助成を受けた『バードが歩いた「札幌本道」の道しるべネットワーク形成事業』では、現地を歩く会(ツアー)を実施するため、室蘭市、豊浦町、伊達市の3つの地域で、地元の協力者、関係者に声をかけて入念な情報収集、調査を行いました。この事業により、札幌本道を軸とした地域間のネットワークづくりに繋がりました。

(2) シンポジウムの開催や広報物の作成等による情報交流

ツアーと同時に、フォーラム「イザベラ・バードを

道しるべとする地域づくりとは」を開催し、今後の地域づくりの活かし方について意見交換を行いました。さらにパネル展を室蘭市「港の文学館」で行いました。

バードの会の活動において、ツアー、フォーラム、パネル展の同時開催という、複合的な活動を行ったことで、この活動形態を生かし、2018年にはイザベラ・バード来道140周年を記念してシンポジウム「写真で辿るバードの道」を開催し、パネル展示も行いました(図1)。



図1 シンポジウム パネルディスカッション

イベントの参加者以外へのPRが課題でしたが、『イザベラ・バード・地域再発見プロジェクト～歴史から未来につなぐ一歩づくり・川づくり・まちづくり～』事業では、旅の終着地である佐瑠太(日高町富川)から義経神社(平取町本町)まで設定したフットパスマップを作成し、広く配布しました。これにより、新たな地域の魅力発信の媒体として活用でき、その後のパンフレット作成に繋がりました(図2)。



図2 作成した様々なフットパスマップ、パンフレット

作成したフットパスマップは、ホームページでダウンロードできるほか、ウェブマップ上で閲覧できる「ストーリーマップ」に活用し、広報活動の強化に役立っています。ウェブマップは、スマホ等で現地を踏査し

ながら、追跡体験ができるので、現地ガイドなしでも同様の情報を得ながらフットパスを楽しめます。

(3) 調査結果を活用し、エコツーリズム等の地域の活性化に資すること

地域の活性化を目的としたエコツーリズムの取り組みとしては、旅の終着地である平取をはじめ、白老、室蘭、森、七飯、函館などで継続してエコツアーを開催し、自然、歴史、文化などテーマを設定することで、楽しく歩きつつ地域とバードへの理解が深まるツアーとなりました。当時の環境に思いをはせながら、バードの見たものや感じたものを追従することは、とても楽しい体験でした（図3）。



図3 エコツアー時の案内板前での解説

イザベラ・バード・地域再発見プロジェクトでは、平取に向けて出発した記念の地である森棧橋近くに案内板を設置し、訪れた方が地域の歴史等を知る媒体となりました。さらに、バードが沙流川を渡河した地点にも案内板を立てました。この事業をきっかけに、バードが函館から歩いた七飯町、白老町、義経神社（平取町）にも案内板を設置しています。

3 最近の活動および今後予定している事業

2021年はイザベラ・バードの研究者である金坂名誉教授の講演会（平取町主催）が開催されました。その後、金坂氏による明治期に撮影された写真の撮影位置の特定と、バードを平取で迎えたペンリウク（家）の位置の比定に帯同しました（図4）。

過去の情報から現在の場所を突き合わせることは、時代を超えてバードと繋がっているように感じ、とても面白く楽しいひと時でした。金坂氏に帯同したことにより、地元で90歳を超える方の平取市街地の回想（鮮

明に記憶している方）との照合など、各地で活動する者の比較、同定作業も重要であると感じました。

今後も地域の振興を目的として道内でのエコツアーを継続し、各地に看板を設置することを考えています。特にバードが利用した森から室蘭への航路（森蘭航路）をメインとした海の上からバードが見た風景を感じ取るエコツアーは、ぜひ実現したいと考えています。各地域との交流のほか、白老町にある「民族共生象徴空間」ウポポイとの連携や、全国各地のイザベラ・バードに関する会とのネットワークづくりも進めていく予定です。



図4 明治期の写真の撮影位置の比定

4 今後に向けて

バードの会の目的は、環境保全と観光の両立を図りながら地域の振興を図るもので、「持続可能な開発目標」(SDGs)の目指している理念と同じものと考えています。SDGsは、「誰一人取り残さない」ことが全ての基本となっています。今後、バードが辿った道と、バードが目的としたアイヌ文化への理解を深め、地域経済の振興だけではなく、教育、人権、環境など、社会の弱者、脆弱な地域を取り残さないという視点で、バードの会を進めていきたいと考えています。

「イザベラ・バードの道を迎える会」

HPアドレス <https://isabellabird-hokkaido.sdgs.asia/>